



子どものためのオルガン・コンサート

～わたしもぼくもオルガンマスター!!～



「子どものためのオルガン・コンサート～わたしもぼくもオルガンマスター!!～」(「子どものためのコンサート・シリーズ」第63回)を2月23日(木・祝)に本学講堂で開催しました(14時開演60分公演 来場者数・子ども191名、大人226名計417名)。

昨年に引き続き、新型コロナ・ウイルス感染症対策として、アルコール消毒、来場者の検温と咳エチケットのお願いなどを行いました。また制限緩和に基づき、楽器体験を終演後に行いました。

出演は、オルガニストの大木麻理先生(本学音楽学部非常勤講師、ミューザ川崎シンフォニーホール・オルガニスト)と、音楽学部オルガン専攻生2名(4年生の森友歌、2年生の村田沙耶)の計3名です。今回のコンサートでは、パイプオルガンに隠された秘密を見つけるために解説やクイズを通して、オルガンマスターを目指しました。オルガンの定番曲から日本の歌のアレンジまで様々な曲を演奏し、舞台上のスクリーンに演奏姿を映しながら進めました。

開演冒頭は、誰もが聴いたことのある名曲である、バッハ作曲《トッカータとフーガ》二短調より

《トッカータ》(村田ソロ大オルガン)で始まり、使用する2種類のオルガン(大オルガン・中オルガン)について説明しました。2曲目、同じくバッハ作曲の《G線上のアリア》(大木ソロ大オルガン)で会場は和やかなムードに包まれました。

ここでパイプオルガンの音はどのようにしているのか、『パイプオルガンの仕組み』という本を使い、謎を解き明かしていきます。本学内に展示されている小さなオルガンの模型が登場し、出演者が実際に音を鳴らしてみせると、客席も惹きつけられたようでした。

続いて、中オルガンを使用したバッハ作曲《小フーガ ト短調》(森ソロ)では、客席からすぐ見える場所での演奏に、お客様からの反応も良く「音の響きを近くで感じる事ができた」「様々な音色を聞く事ができた」などの声をいただきました。

そのまま、《ドレミの歌》を森・村田の2人で、足だけを使い演奏しました。よく見えるように足の動きを横から撮影し、スクリーンに映し出す演出には、「とても良かった」とうれしい声をいただきました。

子どもたちの印象にも深く残ったようで、終演後も楽しそうに歌ってくれている子が多くいました。オルガンの演奏を聴くにあたって、足鍵盤だけを使っての演奏を間近で見られる機会は少ないので、これを機にオルガンへの興味を深めてもらえたらと思いました。



その後作曲家バッハについて、音楽の歴史において欠かせない存在であるということをお話した上で、バッハ作曲〈主よ人の望みの喜びよ〉(大木ソロ大オルガン)で客席を魅了しました。

続けて今までとは少し違った選曲で、日本の心の歌として歌い継がれる〈ふるさと〉をオルガンアレンジでお届けしました。会場アンケートでは「今までの人生の大事なシーンが思い出されるようになった」「涙が込み上げてきた」と、大人の方からの反響が多くみられました。

プログラム後半では、演奏に使用している大オルガンのパイプの本数は何本あるのか、3 択のクイズ形式で客席に問いました。客席の答えはほどよく分散しており、正解の本数を発表すると驚いた表情の方がたくさんいました。

続いて、ヘンデル作曲〈オルガン協奏曲第 6 番〉より第 1 楽章(森ソロ大オルガン)はかわいらしい雰囲気です。「音色に心が落ち着いた」「子どもたちも聞き入った様子で楽しめた」というお声をいただきました。

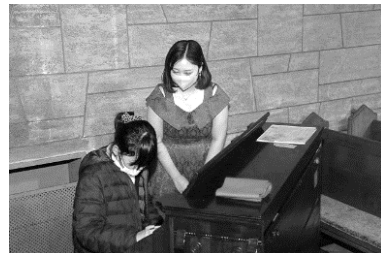
「オルガンらしい曲から普段聴くことのない曲

までたくさん聴くことができよかった」という声の反面、「もっと子どもに馴染みのある曲が多い方がよい」「他の楽器とのコラボも聴きたい」という意見もいただき、次回以降の改善に繋がればと思います。



そして公演最後の曲へ。リンク作曲〈きらきら星〉による序奏、変奏とフーガ(大木ソロ大オルガン)では、〈きらきら星〉のテーマが 10 回変奏され、それぞれ全く違った音色や雰囲気を楽しむことができ、華やかにコンサートを締めくくりました。

終演後には、5 班に分かれて楽器体験コーナーを設けました。コロナ禍で中止になっていた楽器体験の再開を楽しみに待ってくださっていた方がとても多く、親子で楽しんでいただけたと思います。



そして本公演では、「子どものためのスペシャル・コンサート」の中でも過去最高の来場者数を記録することができました。オルガンのよさや、演奏することの楽しさ、喜び、そしてそれを一緒に共有できる音楽のすばらしさをもっと広めていけたらと思います。(村田沙耶・記)

子どものための七夕コンサート ～ お空のうえのおはなし ～



「子どものための七夕コンサート～お空の上のおはなし～」(「子どものためのコンサート・シリーズ」第64回)を7月1日(土)、本学講堂にて開催しました(第1部 11時開演、第2部 14時開演、各60分、来場者数・第1部 404名／第2部 190名、計594名)。

出演は「音楽によるアウトリーチ」履修生を中心とした、芦沢梨里沙(フルート)、金悠雅(ピアノ)、冨田萌絵(ピアノ)、山田詩織(ピアノ)、片山比遊(声楽)の計5名です。

今回のコンサートは七夕にちなんだオリジナルストーリーに合わせて選曲し、はじめてプロの照明を入れ、講堂の天井に星空を映し出すなどの演出にもこだわったことで、七夕らしさが溢れるコンサートになりました。

出演者の挨拶の後、まずは下総皖一作曲〈たなばたさま〉をピアノ演奏に合わせてお客様と一緒に歌うところからスタート。

主人公である男の子が短冊に願い事を書くところから物語は始まります。短冊に書いた願いが叶いますように、という思いを込めて、ハーライン作曲、映画《ピノキオ》より〈星に願いを〉をフルートとピアノで演奏しました。

その後、エステン作曲〈人形の夢と目覚め〉の

ピアノ演奏で男の子が眠りについたことを表現しました。男の子が目を覚まし、お空の上を散歩していると彦星に出会います。男の子が彦星に挨拶する様子を、エルガー作曲〈愛の挨拶〉のフルートとピアノ演奏で表しました。

彦星は男の子に、一緒に織姫に会いに行かないかと提案し、二人がリスト作曲〈ハンガリー狂詩曲 第2番より〉のピアノ演奏にのせて仲良く歩き始めると、急に雨が降り、雷まで鳴り始めました。この雷は照明による演出で表現しました。そして二人が悪天候の中で焦っている様子を、ショパン作曲〈ワルツ イ短調 遺作〉のピアノ演奏で表しました。

男の子と彦星、そして織姫のためにも雨が上がることを願って、中川ひろたか作曲〈にじ〉を歌、フルート、ピアノで演奏しました。客席にいる多くの方が一緒に歌ってくださり、一体感を感じることができてとても嬉しかったです。雨が止み、いつの間にか空には沢山の星がきらめき、天の川が現れました。モーツァルト作曲〈きらきら星変奏曲〉のピアノ演奏で美しい天の川を表現しました。

ほっとしたのも束の間、そこに突然蜂が現れ、男の子と彦星を襲います。コルサコフ作曲〈熊蜂の飛行〉のフルートとピアノの演奏で、この蜂の群れを表現しました。蜂が襲い掛ってくる臨場感を表すため、演奏前のセリフが終わると同時に息を合わせて突然演奏に入る、という演出を考えました。

そして、彦星が蜂と戦っている様子を、ネット作曲(クシコス・ポスト)のピアノ6手連弾で表しました。この曲では、演奏者の3人が押し合いをしたり、声を出したりするなどのパフォーマンスを加えることで、お客様に楽しんでいただける工夫をしました。



無事に蜂を追い払うことができた男の子と彦星は、シュトラウス1世作曲〈ラデツキー行進曲〉のピアノ連弾に合わせて天の川を渡り、織姫との再会を果たします。

ここで「リズムに合わせて織姫と彦星の再会を祝おう！」と題して、客席の皆さんとアメリカ民謡〈幸せなら手をたたこう〉の音楽に合わせてリズム打ちをするというアクティビティを行いました。

サンバやブルースなど、さまざまなリズムに合わせて手を叩きました。中には難しいリズムもあったため、何度か練習を行いました。練習を重ねるうちにリズムが揃い、最後には会場全体で一体感を感じることができました。

来場時に配布した折り紙で作った星の飾りを手につけ、楽しそうに参加してくれている子どもたちの様子が印象的でした。



織姫と彦星の再会をお祝いしたところでお話は締めくくり、今回のコンサートで登場したフルートとピアノの楽器紹介を行いました。楽器について会場に問いかけをした際には、客席から大きな声で反応があり、積極的に参加してくださっている様子が舞台の上にいる私たちにも伝わってきました。

その後、改めてみんなの願いが叶いますようにとハーライン作曲、映画《ピノキオ》より〈星に願いを〉を、客席の皆様と共に歌いました。

そして最後に、出演者全員で中川圭三作曲〈ぼよん行進曲〉をピアノの演奏に合わせて歌い踊りました。思いの外、お客様も一緒に踊ってくださり、会場全体で楽しむことができました。

今回のコンサートは、音楽はさまざまな情景や、喜怒哀楽を表現できること、また、リズムや曲調が変化することで、同じメロディがまるで違うものになると体感してもらうことを目的として行いました。楽器の種類が少なく、悩むことも多々ありましたが、その中でも楽しんでいただけるよう工夫しました。

終演後にはフルート、オルガン、ピアノ、ドレミパイプ、打楽器の楽器体験コーナーを設け、たくさん子どもたちに参加してもらうことができました。

今回のコンサートを通して多くの学びや気づきを得ることができたので、是非これからの活動に活かしていきたいです。

(芦沢梨里沙・記)

学外アウトリーチ実習

芦屋市立小槌幼稚園

3月8日(水)、芦屋市立小槌幼稚園(兵庫県芦屋市打出小槌町15-7)にて、アウトリーチコンサートを行いました(13時20分から14時まで)。対象は、同園の園児と教員、そして保護者の方々でした。

出演は、「音楽によるアウトリーチ」履修生の稲葉彩萌(クラリネット)、田上優希(トロンボーン)、山田梨紗子(ヴァイオリン)、高橋優佳(ピアノ)の4名です。

今回のねらいは、私たちの演奏する4つの楽器の魅力を知ってもらうことでした。



挨拶と自己紹介を終え、芦屋市立小槌幼稚園の皆様と初めましての気持ちを込めて、E. エルガー作曲〈愛の挨拶〉を演奏しました。

続いて、楽器紹介とそれぞれの楽器がメインになる曲を演奏しました。ピアノでは、元々オーケストラの曲である、S. プロコフィエフ作曲バレエ《ロミオとジュリエット》より〈モンタギュー家とキャピュレット家〉を演奏しました。

ヴァイオリンでは、弓を使わない「ピッツィカート奏法」を用いた、L. ドリーブ作曲〈ピッツィカート〉と、「バタン、ドスン」などの雑音と言う意味であるL. アンダーソン作曲〈プリンク・プランク・ブルンク〉を本当に「バタン、ドスン」などの雑音を入れて演奏しました。

そしてトロンボーンでは、トロンボーンならではの「グリッサンド奏法」を活かした、O. レス

ピーギ作曲《ローマの祭り》よりトロンボーンソロの抜粋と、アメリカ民謡〈聖者の行進〉を演奏しました。

クラリネットでは、楽器を分解しても演奏できるのかを検証するため、フランス民謡〈クラリネットこわしちゃった〉を演奏し、トロンボーンでも用いた「グリッサンド奏法」を活かした、G. ガーシュイン作曲〈ラプソディー・イン・ブルー〉を演奏しました。



最後は、《となりのトトロ》より〈さんぽ〉を演奏しました。

1曲目の〈愛の挨拶〉から演奏が終わるたびにたくさんの拍手をいただき、クイズや質問の時には、園児のみならず、保護者の方にも積極的に参加していただけたことがとても印象的で、うれしかったです。最後には保護者の方々にアンコールのお声もいただき、「とても楽しかった、また来てね」と言っていただきました。



会場全体が一体となった、とても有意義なコンサートになりました。(高橋優佳・記)

学外アウトリーチ実習

西宮市立門戸幼稚園

6月6日(火)10時15分から、西宮市立門戸幼稚園(西宮市門戸東3-25、園長・阿部久美先生)にて園児対象の「あじさいコンサート」(45分)を行いました。

出演は、「音楽によるアウトリーチ」履修生の芦沢梨里沙(フルート)、金悠雅(ピアノ)、山田詩織(ピアノ)の3名と本学准教授の稲本渡先生(クラリネット)、アウトリーチ教員の谷田奈央先生(声楽)の計5名です。

普段あまり触れられないクラリネットやフルートだけでなく、なじみのあるピアノや歌について、音楽を楽しみながら深く知ってもらうことをテーマに、プログラムを構成しました。

初めにあいさつの気持ちを込めて、エルガー作曲〈愛の挨拶〉を演奏し、フルートについて説明をしました。その後、リムスキー＝コルサコフ作曲〈熊蜂の飛行〉で、フルートの音の特徴を聴いてもらいました。

続いて稲本先生に、〈クラリネット壊しちゃった〉の曲とともにクラリネットについて説明していただきました。稲本先生の演奏も園児への受け答えも、とても勉強になりました。



その後、ショパン作曲〈ノクターン第2番〉、モーツァルト作曲〈きらきら星変奏曲〉を演奏しました。皆がよく知る〈きらきら星〉のメロディーが何度変化したかを園児たちに数えてもらいました。

その後、映画『ピノキオ』より〈星に願いを〉を演奏し、ここまで少しむずかしい曲が続きましたが、園児はすごく集中して聴いてくれました。

ここからは、谷田先生による、歌を交えたプログラムが展開されました。最初に、園でも歌われている中川ひろたか作曲〈世界中のこどもたちが〉を演奏しました。

次に、オペラ《カルメン》より〈ハバネラ〉では、谷田先生が曲に合わせて園児のすぐ近くまで移動し、子どもたちを魅了していました。

歌唱後に発声のアクティビティを行った後、中川ひろたか作曲〈にじ〉を園児のみなさんと一緒に歌いました。



最後は中川圭三作曲〈ぼよん行進曲〉で歌って踊り、盛り上がり、コンサートを終えることができました。

私たちにとって初めての实習でしたが、先生方と一緒に伺えたことは、とても勉強になり、貴重な機会でした。最後に園児から「ありがとう」と言ってもらえて、アウトリーチの楽しさを実感することができました。



(山田詩織・記)

3 年生授業「音楽によるアウトリーチ(講義)」講師 谷田先生

「音楽によるアウトリーチ」その魅力

昨年度より「音楽によるアウトリーチ(講義)」を担当しております。私自身もアウトリーチ 5 期生としてこの授業で学び、その後アウトリーチ・センター、連携ルーム各スタッフ、アウトリーチ要員…と、長年様々な形でこの授業に関わってきました。

更に 5 期生メンバーと結成した音楽グループ「アンサンブルちようちよ」は結成 15 周年を迎え、これまでに 400 回近いアウトリーチ公演を展開してきました。

私はこの授業に出会ったことで人生が変わったと言っても過言ではありません。

「アウトリーチとは、`聴衆が音楽をより深く聴くことができるよう備えを施すこと、」

この授業を立ち上げ育ててこられた津上智実先生の言葉です。

アウトリーチの現場も多種ありますが、学生たちの最も多い実習先は保育園や幼稚園です。子どもたちの集団は、コンサートホールに集まってくる「音楽に興味がある聴衆」ばかりではありません。どんなアプローチを使ったら子どもたちが興味を持って音楽を聴くことができるか。それには奏者の「語り」「見せ方・魅せ方」「アクティビティ」など様々な方法があると考えます。

4 年生でスムーズに実習へ進めるよう、私の担当する 3 年生の講義では、それらの方法を学び、公演プログラムの立案から MC の内容を考え、プレゼンテーション、模擬公演まで行います。

来年度より音楽学部には「音楽教育」「音楽ビジネス」「生涯教育」を柱とした「音楽キャリアデザイン専攻」が新設され、「音楽を介して人や社会

に貢献する即戦力となる人材の養成」を目指します。

私自身も 3 人の子どもの母親です。子育てと音楽の仕事の両立が叶っていることは「音楽によるアウトリーチ」という `音楽の生涯教育、との出会いが根底にあると思っています。

センター長の稲本渡先生と共に、皆さんの仕事の可能性・将来の選択肢を広げるお手伝いができれば幸いです。



谷田 奈央 (音楽によるアウトリーチ(講義)講師/声楽)

神戸女学院大学音楽学部、同大学院音楽研究科修了。

オペラや『第九』公演等に多数出演。

関西主要オーケストラ等の文化庁学校公演にて歌と MC を担当。

音楽グループ『アンサンブルちようちよ』を結成しこれまでに 400 回近い公演を展開。

音楽家のための MC 講座講師としても活躍中。

関西二期会会員、神戸音楽家協会会員。

2023年度 後期の予定

◎ワークショップ

「第11回 音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」

日時：2023年9月23日（土）9：30～16：00

場所：神戸女学院大学 音楽館ホール

講師：英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リーダーシップ専攻修了者

対象：小学生・中学生・高校生 先着30名

参加費：無料

応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第65回 子どものためのスペシャル・コンサート～オトノトビラ～」

日時：2023年10月14日（土）14：00 開演※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください。

会場：神戸女学院 エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

出演：齋藤 守也（ピアノ レ・フレール）、

稲本 渡（クラリネット 本学准教授）、高橋 優佳（ピアノ 大学院音楽研究科1年）

入場料：大人1500円、子ども（3～17歳）500円

応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第66回 子どものためのクリスマス・コンサート「Bone ボヤージュとクリスマスの旅」

～トロンボーンって知ってる？～」

日時：2023年12月9日（土）

第1部 11：00 開演（年齢制限なし）

第2部 15：30 開演（幼稚園年長以上対象）

会場：神戸女学院 エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

出演：鶴房采花、田上優希、龍咲良、北野純怜、吉田梨絵（トロンボーン）

松尾璃奈（ピアノ） 別所香穂（声楽）

入場料：大人500円、子ども300円

応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。



音楽をお届けします 

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

ホールや劇場といったコンサート従来の枠にとらわれずに、

社会のさまざまな場所にすてきな音楽プログラムをお届けします。

幼稚園・小・中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、子どもたちに楽しい音楽体験を！

病院や美術館へ：催しの趣旨に合わせた音楽プログラムを、心を込めてお届けします。

お問い合わせ

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター（火～金 10：00～15：00）

〒662-8505 西宮市岡田山 4-1

TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551

E-mail : outreach@mail.kobe-c.ac.jp

<https://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

